

勸善懲惡 錦画面圖解

第四十三號

大坂第二大区九小區

笠屋町五十番地

山崎九八郎の嫁

お君といふ八當

十一歳まで三床橋

南詰の紋屋の娘

おゆりが此山崎

方へ嫁して

まご間もなきお

いふなる憂事

有よや當八月の

三日小親九歸りし

何う委細有げなきともいも明さす

其儘出て北の新地を姉方よのき何う話の

真うち不二階より紅筆して書置と認め

懐不入て何事もなく歸るを姉へ何う氣お

うり下女と付て送られし途中にて下女をた

まて夜不入て堀江瓶橋に至り橋木衣類と

書置と風呂きき小包を置て投身せし

跡へ来りし車夫が拾ひて見せ書置の上

かき小云々の所へ届て早急と有し故いふせん

思ふ折しも巡査来りて早速取調お君ともとひま

とも最早死せりと

編輯 藤井克三
墨筆 笹木芳瀧

出版所

本町四丁目
藤井時習舎



80
75
70
65
60